

40回生卒業証書授与式 式 辞

春の訪れを予感される木々の芽吹きが感じられる今日、兵庫県立西宮甲山高等学校第40回卒業証書授与式を挙げていただけますことは誠に大きな喜びであります。本日、PTA会長様をはじめ、多数の保護者の皆様のご臨席を賜り本校の教職員を代表して厚く御礼申し上げます。

そして、保護者の皆様におかれましては、お子様のご卒業を心からお祝い申し上げます。ただ今、本校の卒業証書を授与しました119名の皆さん、皆さんの在学中の努力と精進に対して心から賛辞をおくりします。皆さんにとってコロナ禍の影響がまだ残る中で始まった西宮甲山高校での高校生活は、何かと制約の多いことだったと思います。そんな中でも、勉強だけでなく、学校行事や生徒会活動、部活動等様々なことに取り組んできたことは皆さん自身にとって大きな意味があるものであったはずで、悩みやつらさを克服して、今日のこの日を迎えられることに、心から祝福の拍手を送るとともに、家族や友人、その他多くの人々の温かい励ましと支援があつて、この日を迎えられることを決して忘れないでください。

さて、私が皆さんと出会い、言い続けてきたことがあります。一人ひとりにはかけがえのない存在であり、将来を見据え自立することを問い続けて欲しいということです。これからの時代に対応できる人間になり続けてほしいという願いをこめて、お話ししました。この話の意味を今一度紹介し卒業する皆さんへの餞（なはむけ）とします。

まずは、常に変化している社会の変動性についてです。現代における科学技術の進化や、それに伴って様々な価値観や社会の仕組みが進化し、人々求めるものが多様化しています。短期間で自身が置かれた状況が変わるかもしれない中、将来の予測が難しくなっても、皆さんは歩みつづけなければなりません。

2つめは不確実性です。グローバルな視点でいえば、地球的規模で見ると温暖化に伴う気候変動や様々な感染症などの疾病、身近におこる事件・事故など、唐突に訪れる問題を予測することは困難です。将来の予測をすることが困難になる今、万一の状況「まさか」の事態が起こっても、的確に対応することができる「備え」の発想をもって臨むことが求められています。

3つめは、複雑性についてです。私たちの生活に関わる様々な事象や案件がグローバル化したことにより、考え方や行動が簡単に決定できない時代になっています。私たちの社会は、存在する場所により習慣や常識、ルールなどが異なります。ある場所では成功したとて、別の場所では通用しなかつたりすることがあります。グローバルな環境下では、その場の常識などさまざまな要因が絡み合つて、状況を複雑化していくことから、閉ざされた世界または隔離された狭い視野で考えるのではなく、常に広い視野で考え、その場と状況にあわせた柔軟な発想で、臨機応変な対応が求められます。

4つめは曖昧性です。これまで述べた変動性・不確実性・複雑性が網の目の用に様々な場面で絡まり複雑に組み合わさることで、私たちの社会が成り立っています。過去の実績や成功例に基づいたやり方では通用しない、曖昧な世界へと突入しています。変化や進化の激しい未来を生き抜くスキルを身につけるためには、まずは自分が持っていない情報に触れ、異なる文化歴史を持つ人々や、異なる価値観を持つ人々と交流し対話し続けることが求められます。自身だけでなく相手や周囲の人達も大切にする姿勢が、自分たちのやり方の課題や解決に向けたヒントとなり、これから皆さんが歩む人生のステージでの新たな出会いや理解にもつながります。

昨今はAIをはじめとした技術が進歩し便利になる一方で、偏った物の見方やいろいろなフェイクニュースが存在します。何が信頼できる情報かを見極めようとする姿勢と行動力、柔軟な物の見方をもち続けることが大切です。一方で、皆さんが本当に困った時には、一人で悩まず相談機関を見つけて、相談し悩みを吐き出してください。社会にはいろいろなセーフティーネットがあるので、助けを求める力も持ってください必ず力になってくれることと思います。

40回生の皆さんはこれからの社会を担っていく人たちです。この甲高でその基礎になる力をすでに身につけていると思います。皆さんのこの先の活躍に期待しています。皆さんの輝かしい前途を祈念して、式辞といたします。

令和7年2月28日
兵庫県立西宮甲山高等学校
校長 田中 優至